

氏名	はら あい 原 愛
学位(専攻分野)	博士(学術)
学位記番号	博甲第833号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科 造形科学専攻
学位論文題目	不整合性と寸法に見るセナンク修道院の中世における建設
審査委員	(主査)教授 西田雅嗣 教授 中川 理 教授 石田潤一郎 大同大学 副学長・理事 教授 佐藤達生

論文内容の要旨

本論文『不整合性と寸法に見るセナンク修道院の中世における建設』は、中世シトー会修道院の中でも有名なもののひとつであるセナンク修道院の中世の建設部分に当たる建築に、建築物の現状の詳細な観察、精密機器を使った実測と実測図作成、尺度や寸法、現場で使われた物差しの検討など、著者自らが実施した詳細な考古学的な調査に基づき、セナンク修道院の中世の建築に、建設当時の計画変更や詳細な建設プロセスを再現し、中世の建設の実態に迫ろうという論文である。

セナンク修道院の12世紀の中頃から13世紀の初めにかけて建設された、いわゆる中世の建設にかかる部分の建築は、教会堂の装飾、その他の意匠に関する異同により大きく二期に分かれるとされている。またこの建築には、比較的統一した計画をもって、同じ寸法や同じ形状で作られるのが通常であるような箇所にも、例えば石目地や平面の形状にずれや歪みなどの不整合が存在する。この原因は、おそらく計画変更、施工者の変更、基準物差しの変更、石材供給の変化など多岐に及ぶと考えられるが、これらはいずれも中世の建設の実態を物語るものとして本研究の重要な分析要素である。

本研究の方法としては、目視観察により繰形蛇腹、ヴォールトと横断アーチ、石目地、トロンプ・ドームといった不整合性を列挙、記述し、次にそれぞれの不整合性の原因を、その観点ごとに、あるいは複数の観点から総合的に考え、合理的な説明を求め、セナンク修道院の建設の実態の検討を行うものである。本研究はまた、こうした検討に当たって、尺度、寸法、物差しを重要視し、建設の実態を物語る要素として詳細に検討を加えている。

本論文の第1章は序論であり、研究目的と研究方法が提示され、中世建築の建設現場や建設プロセスに関する既往研究や、セナンク修道院の中世の建設プロセスについての既往の説が検討され、中世の建設にかかる部分の建築は、教会堂の装飾、その他の意匠に関する異同により大きく二期に分かれるというのが現在の定説であることが提示される。また、本研究が、現地での詳細な考古学的な調査に基づく実証研究であることと、セナンク修道院に関してこのように詳細な考古学的研究はまだなされていないことを主張する。

第2章は、目視の観察で不整合が極めて多数目につく集会室を取り扱う。集会室の不整合を目視観察と寸法分析により考察し、実現されなかった当初の集会室の計画案の復元も含めて、集会

室の部屋の拡張に起因する計画変更の諸段階を合理的に明らかにし、二種類の異なる物差しの存在を同定する。

第3章は、既往研究が第1期の建設とする教会堂の内陣部と交差廊の不整合について検討を加える。繰型蛇腹のプロフィールの違い、ヴォールト形状の異同、石目地の読解、寸法の検討がなされ、特に寸法、尺度の検討では、ここでもまた二種類の物差しの存在が明らかにされる。寸法として現れる数字の重視、交差部南側のピアの改変、そして天井ヴォールトの架け替えが、こうした不整合の吟味から明らかにされる。特に現在の交差部に架かるトロンプ・ドームが後補であり、観察される様々な不整合がこのトロンプ・ドームの建設に起因する様を詳細に描き出す。

第4章は、既往研究が第2期の建設とする教会堂の身廊部の不整合を扱う。同様に、繰型蛇腹のプロフィールの違い、ヴォールト形状の異同、石目地の読解、寸法の検討がなされ、この部分を含む、夙に有名な側廊横断アーチのずれという不整合に対しても、寸法分析を通して、異なる物差しのもとでの寸法として現れる数字の重視に起因するという解釈を示す。またこの章では、中世当時の建設現場での慣行であったとされる現場で作成される派生尺に関する検討を行い、全部で6種類の物差しが結果想定され、上記観察結果との対応を吟味することで、身廊部に見られる錯綜する建設プロセスが詳細に再現される。

第5章は教会堂を離れ、修道院のすべての諸室の建設プロセスに関係する回廊の建築を扱う。やはり同様に、不整合に関して繰型蛇腹のプロフィールの違い、ヴォールト形状の異同、石目地の読解、寸法の検討がなされ、特に本章では、回廊アーケードの立面の寸法分析も行われ、前章で検討された派生尺と整合する寸法構成も示される。回廊平面が見せる微妙な台形状の歪みに関しても、以上のような分析を通して、建設プロセスに起因する不整合と寸法に現れる数字の重視として説明づけられる。

第6章は、第2章から第5章までで行われた目視観察と寸法分析を再度整理し、修道院全体の建設プロセスを総合的に俯瞰して、既往の説が唱える1期と2期を、枠組みとしては概ね踏襲しながらも、その各段階のかなり複雑な詳細プロセスや1期と2期間にまたがる可能性のある段階などを提示する。特に、既往研究では、基本的に平面でしか考察を行なっていないため、建築の立体的な建設プロセスへの検討に弱点が見られるが、本研究は、ヴォールト架構の各段階等、立体的に建設プロセスをまとめ直して提示する。

第7章の結論では、中世の建設現場という研究分野での本研究の位置付けや、本研究の内包と外延、研究の今後の展開の方向性などが述べられる。

最後に「図面集」として、筆者らが行なった考古学調査結果に基づいて作成された、セナンク修道院の現状の詳細な実測図面が付される。詳細かつ正確な図面に恵まれなかったセナンク修道院の現状を、正確な実測図として詳細に総合的に示した最初の図面として価値がある。

論文審査の結果の要旨

本論文は、中世シトー会修道院の中でも有名なものの一つであるセナンク修道院の、中世の建設工事でできた建築に、建築物の現状の詳細な観察、精密機器を使った実測と実測図作成、尺度や寸法、現場で使われた物差しの検討など、著者自らが実施した詳細な考古学的な調査に基づき、

セナンク修道院の中世の建築に、建設当時の計画変更や詳細な建設プロセスを再現し、中世の建設の実態の一端を実証的に解明した論文である。

申請者が所属する研究室が以前より行ってきた現地での考古学的建築調査を受け、これら研究室に蓄積されている調査結果を十分に援用するとともに、申請者本人も七年間に亘って研究室の行う調査に主要メンバーとして調査を率い、現地での詳細入念な建築調査を実行した。本研究は、こうした調査に基づいた実証的な研究であり、当該建築についての考古学調査としては、現在のところ申請者が行なったものが最も完備された信頼の置けるものである。詳細かつ正確な図面に恵まれなかったセナンク修道院の現状を正確な実測図として詳細に総合的に図化した最初のものとしての価値がある実測図面も論文末尾に付され、この点にも学術的価値はあると判断される。

フランス本国の先行的研究者たちですら気付いていなかったセナンク修道院建築の不整合なあり方を、詳細かつ客観的にここまで明らかにした学術的意義は高く、その信頼性もあると評価できる。一般に、シトー会修道院建築は合理的に建設され建設技術レベルも高く、非常に整った印象を与える建築であり、専門家たちもそう理解をしてきたが、本論文はこうした印象的理解を根底から覆し、しかも実測等、客観的実証的な方法で、これら不整合を提示し得たのは極めて高い学術的価値であると言える。

建設プロセスの解明において、詳細な考古学的な観察、特に本論文では、繰型蛇腹のプロファイルの違い、ヴォールト形状の異同、石目地の読解、寸法の検討を一貫して統一的に行い、観察、記述も入念になされており、近年欧米の建築史研究で盛んな、いわゆる「建築考古学 (archéologie du bâti)」の模範的な研究とも言えるものである。

実測値、尺度、寸法、物差しを建設プロセスの解明にあたっての重要な検討事項としたことは、実測調査を行い、実測図面を作成することも含めて、日本における日本建築史研究の方法論でもあり、これを西洋の歴史建築に適用し、成果を挙げた点にも学術的意義を認めるべきであろう。尺度研究の有効性を提示した意味は大きい。

石目地などに代表される通常の建築考古学分析の検討レパートリーに加えて、実測図面を作成し、寸法、物差しの視点を加えて、中世の修道院建築の建設の実態に切り込んで行った研究は、目論見、方法においての学術的価値のみならず、我々の従来の考えを覆す可能性のある得られた結果の意義、あるいは今後の研究への展開の可能性も含めて、貴重な研究業績として価値がある。よって学位論文としては合格と判断される。

なお本論文の一部は、以下の 1 編の査読付き論文 (①) として既に公表されており、また他の部分も以下の 2 編の査読付き論文 (②③) として公表が確定している。

①原 愛、西田雅嗣「建築に見る不整合性から考察したセナンク・シトー会修道院集会室の 12 世紀末から 13 世紀初めにかけての建設プロセス」、日本建築学会計画系論文集、第 81 巻、第 721 号、p.771-780、2016 年 3 月

②原 愛、西田雅嗣「セナンク・シトー会修道院回廊のアーケードの寸法構成とアーケード列の建設順序」、日本建築学会計画系論文集、第 82 巻、第 734 号、2017 年 4 月

③原 愛、西田雅嗣「建築に見る不整合性から考察したセナンク・シトー会修道院教会堂の身廊部の 12 世紀末から 13 世紀初めにかけての建設プロセス」、日本建築学会計画系論文集、第 82 巻、第 735 号、2017 年 5 月